

令和元年 第3回定例道議会 9月24日 一般質問
～北海道議会 会議録より～

四. こども参画の推進について

質 問	答 弁
<p>(広田議員)</p> <p>知事の、ほっかいどう応援国会議など、新たな政策形成づくりの枠組みに挑戦していく考えには、私は賛同するところです。</p> <p>私としては、今後の政策形成にあたっては、こどもたちを未来をつくっていく権利の主体として位置づけていくことが急務であると考えています。</p> <p>世界にもそうした動きは進んでおりますし、日本国内においても小規模自治体にまだ多い訳ですけれども、アリバイ的なこども参画の取組みではなく、実際に政策提言にもつながる事例が起きています。道内においては浦幌スタイルなどが有名です。</p> <p>道政全般に係る政策形成過程におけるこども参画推進の必要性についての知事の認識と、道としてのこれまでの取組や、今後の展開に向けての見解を伺います。</p>	<p>(少子高齢対策監)</p> <p>政策形成過程におけるこどもの参画についてでございますが、子どもの未来に夢や希望が持てる活力あふれる北海道を創っていくためには、次代を担う子どもの意見を政策に反映することが重要と認識をしております。</p> <p>このため、道におきましては、平成16年に制定をした子どもの未来づくりのための少子化対策推進条例の基本理念に子どもの権利を最大限尊重することなどを位置づけるとともに、子どもが自らの意見を表明する権利を行使できるよう、北海道子どもの未来づくり審議会に「子ども部会」を設置し、中高生の委員から頂いた意見を結婚応援フォーラムや赤ちゃんのほっとステーションなど様々な施策に反映してきたところでございます。</p> <p>道といたしましては、社会全体で少子化対策を推進するため、今後とも、こうした機会を積極的に設けるなどして、子どもの意見が適切に社会に反映される環境づくりに努めてまいります。</p>